

連続するグループと、鰓孔が小さくて胸鰭の付け根のすぐ上にあるグループに分かれます。本種は後者のグループに属します。後者は腹鰭が1棘3軟条のものと、1棘2軟条のものにさらに分かれます。本種は1棘2軟条のグループに入ります。イソギンポ科はスズキ目に属しますが、典型的なスズキ目魚類の腹鰭は1棘5軟条、本科は1棘2～4軟条です。



2004年6月1日灘で採集。

い1列の歯があります。最後の歯は犬歯状で、下顎の歯は巨大です。

イソギンポの仲間は底質のすき間によく隠れています。右の魚はカキの死に殻に入っていました。捨てられた空き缶も利用します。たくましいというより、悲しいですね。

左の写真で、イソギンポ科の腹鰭が他の魚と違うのが分かります。さて、トサカギンポの腹鰭は1棘2軟条と書きましたが、どうみても2本（片側）しか見えません。これは、棘がたいへんに短くて皮下に埋没しており、軟条しか見えないからなのです。

口は小さいのですが、両顎に鋭



2004年4月20日衣ヶ島で撮影したトサカギンポ。

2004年11月3日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）をお願いします。